



【山城】 奥秩父

【ルート】 瑞牆山荘 9:00→富士見平小屋 10:00→瑞牆山山頂 14:00→富士見平小屋 17:00

2日目金峰山は雪のため撤退

【日程と天気】 12/29(日)晴、12/30(月)雪

【メンバー】 CL 松本、澤田淳、加藤、金(記録)

#### ほんとの望年慰労会

師走中旬、会の望年山行の帰りの車の中での何気ない会話がきっかけであった。

八ヶ岳の雪の少なさに寂しさを感じたのかとにかく雪山に行きたいという話で盛り上がったのだが、満足のいく雪がある所と行ったら場所は限られてくる。

もうとにかく年末だし、たまにはゆっくり小屋泊がしたかった。

西穂か、鳳凰三山か、はたまた木曾駒ヶ岳かと候補をあげるなか、一番楽そうで美味しい物が食べれてと要望を盛り込む中、常に私の中でのご最良が頭の中でチラつくのである。

瑞牆、金峰山の合間にある富士見平小屋である。私にとって独り小屋泊をデビューし、小屋泊の楽しさを教わった思い出深き小屋である。以来4年間毎年小屋泊したり、テント泊したり毎年訪れる場所である。

だがしかし雪となると奥秩父故に南岸低気圧でも来ない限りさほどの降雪は望めない。

まあ、望みをかけて西穂山荘に行く事にしたが、望みはあえなく寒波に吹き飛ばされ代案を求められた時迷わず富士見平小屋を提案したのであった。

かくして隙あらば食べたり飲んだりするユル望年慰労会とあいなったのである。



望年山行といいながら私の中では八ヶ岳、大楠山に続く 3 回目、ようやく日付的にも今年最後の山行であった。世間では忘年会で忙しいのと同じことだと独り納得するのであった。そして 4 人とも日帰りの山行の次の日の連チャン山行にお互い苦笑いするのであった。早朝、事務所泊の二人を M さんがピックアップし移動するが、流石に皆落ち着いている。山に登りたいという執着心が一旦は昨日の内に昇華されてるようであった。約一名私のみ二日酔いで早朝から気絶してたが、現地へ近づく頃には復活し、すき家で定食をかつ込むのであった。

瑞牆山荘までは雪も路面凍結もほとんどなく無事に来れて一息ついたが、駐車場の坂を登れず焦るが無事駐車スペースを確保。

まずは約一時間小屋まで登るが、途中瑞牆山のビューポイントで歓声上がる。まるで空にそびえる天空の牙城と言った風情である。

冬でも凍結しない有難い湧水を汲み小屋に荷物をデポする。いかん、軽食メニューに手を出したら最後、小屋で停滞してしまうのでそこは我慢。

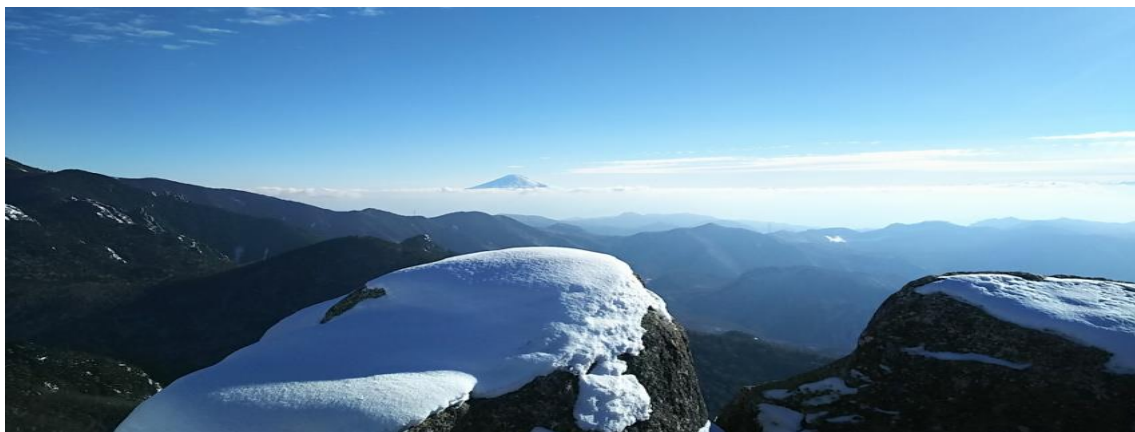


奥秩父の苔むした森を抜け、小さな天鳥川を渡ると岩の牙城の麓にたどり着いた。ここからはアスレチックワールドなので、ストックは早々にしまう。雪化粧くらいにしか積もってない登山道をチェンスパイクでサクサク登っていく。初めて冬景色の瑞牆山。中々個人では来ることが叶わず、ようやく来ることが出来て満足する私の隣では初瑞牆山に喜ぶ M さんの姿。

今まで毎年来るたびに思う事は、最初は辛かったり怖かったりした登山道が年々慣れていって楽に感じるのであった。

風もなく暖かい日差しの中、先ずは初見参の M さんが山頂に到達。

八ヶ岳に南アルプスに浅間山に金峰山とグルリと展望が開けた山頂で暫し思い思いの時間を過ごす。昼寝が出来るほど快適な環境であったが、いつまでもいる訳には行かないので適当に撤収を開始する。



あまりにノンビリし過ぎて夕暮れの頃に小屋に帰ると、玄関脇の窓から温かな光が漏れていた。

そう、ここは今時珍しいランプの小屋。昼間は少し暗かった小屋のリビングが赤々としたランプに照らされているのであった。

夕飯の食卓にはお目当てのジビエウイナーが並んでる。いそいそと小屋のオリジナル地ビールを購入し鹿肉(プレーン、山椒、チョリソー)新登場猪肉を頂戴する。コレです、コレが食べたかったあ！

その後も女子会トークは続き、富士見平の夜は更けていくのであった。



翌日、目が覚めると空は曇天であった。

ピータン入りのお粥の朝食を頂きながら、心はもうサボる気満々(?)である。

ダメ押しで小屋のオーナーさんに天気を聞くとやはり雪だという話なので、即座に金峰山行きは中止になった。

皆登頂してる、天気悪いと来たら無理に執着する理由はなく、むしろ優雅なティータイムを楽しむ大義名分が出来たという感じである。

そう、昨日はガマンしたコーヒーとケーキが頂けるのである。

この辺の意見の一致はやはり女子チームならではであろう。

コーヒーフリークな M さん、S さんはここぞとばかりにブルーマウンテンを注文し、素晴らしい自らのご褒美をゲットしてました。

このティータイムのおかげで小屋のオーナーさんと色々お話しすることが出来ました。

オーナーさんはいかにも山男と言わんばかりの白い髭を蓄えた方で、この辺りの岩を踏破しまくったクライマーらしい。

富士見平小屋の再建の話や困ったお客さんの話、ピッケルとかの道具の話、色々な話を聞かせてもらい、最後にはザックに格好良くピッケルを括り付けるやり方まで教わって、我々は富士見平小屋を後にしたのであった。

普段、テント泊が多い人ほどたまに小屋に泊まるとパラダイス指数は高くなる。

荷物は少ないし、食事は出てくるし、寝具の用意もしなくていい。そして帰ってからの道具のメンテナンスも格段に楽だ。

楽だなあ、幸せだなあ、楽しいなあと皆で連呼してる様子がなんだかとっても印象的だった。

帰りは寒いので増富温泉ではなくハイジの村のお風呂に立ち寄り、山梨らしく小作のほうとうを食し、信玄餅ソフトクリームも食べてみる。確実に運動量よりもオーバーしていると思いつつも、少人数&女子チームゆえにワガママが止まらない(笑)

うーん、今更だが山行の報告というよりは富士見平への偏愛を綴った文章になってしまいました。

最後にリーダーの M さんとご一緒してくれた S さん、K さんに感謝です。